

施設名	一の橋こどもの家
施設所在地	狛江市岩戸南1-3-12-1階
法人名	一般社団法人やよい会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

感覚（絵本）

<テーマの設定理由>

絵本を取り入れることで、絵本に目線が集まり、保育者の話を落ち着いて聞いたり、次の活動への集中力を高めたりする。また、絵本を通して絵本の世界観を想像したり、新しい事を知って興味の幅を広げる事を狙いとして設定。

2. 活動スケジュール

令和7年9月～令和8年3月（月4回活動）

・0.1歳児クラス(11名)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【準備したもの】

- ・絵本
- ・色々と手にしたり目にしたりした物に不思議を感じたらすぐに調べたり出来るように絵本の設置を行なっていった。

4. 探究活動の実践（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

<活動の内容>

・コーナー遊び。絵本をく姿も見られるが、コーナーで遊ぶ事を伝えると遊びたいコーナーや好きな絵本を選択して座って遊ぶ事が身に付いている。また、活動前に絵本読みをする事で、次の活動への興味が高まって集中力して取り組む事が出来ていた。



・絵本の絵柄を見て「〇〇！」と発語に繋がったり、「どこに行くのかな？」など絵本の世界観に興味を示して想像したり、食べ物・車など大きなくりから「これは？」と個別の名前を知ろうとしたり、落ち着いて会話を楽しみながら興味関心が広がって



・絵本の登場人物の動きを真似っこ遊び。ハイハイなど基本的な動きをする事で自分の重さを知る、間接を動かして筋の伸び縮みを感じるなど、身体をしっかり支えられるようになって、身体の動かし方が身に付いてきている。また、目で得た情報を身体で表現する事で情報処理や思考力の向上に繋がり、身体的な側面だけでなく、心や脳の発達にも繋がっている。

5. 振り返り

読み聞かせを聞く事から、徐々に自分で読もうとページをめくったり、絵の名前を知ろうとしたりなど絵本への興味が強まって発語につながり、会話のきっかけとなっている。絵の動きの真似では、目でも情報を得られる事で、言葉だけでよりも伝わりやすく、集中力が高いように感じられた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	一の橋こどもの家
施設所在地	狛江市岩戸南1-3-12-1階
法人名	一般社団法人やよい会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

感覚（ブロック、パズル、磁石）

<テーマの設定理由>

・ブロックを組み合わせることで大きな物を作りあげたり、繋げたり、並べたり、色分けをしたりする中で形、色、数への興味を高める。

2. 活動スケジュール

令和7年7月～令和8年3月（月4回活動）

・0、1歳児クラス（10人）

様々な形のブロックを準備する事で興味の持てるブロックを見つけていき、遊びを展開できるようにしていく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【準備したもの】

・アンパンマン数字電車ブロック、井形ブロック、数字ブロック

【環境構成】

・十分な数を用いて活動でできるように3人ずつ位のグループになるようコーナー作りを行っていく。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>



（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

・長く繋げていく中でカーブしていく事に気づくと円を作りあげていく。丸い玩具を用いるとタイヤに出来る事に気づき、車や電車を作りあげてブロックで更に道路や線路を作りあげてお買い物ごっこへと発展させる。



・アンパンマンのキャラクターを完成させると、日常会話を取り入れてごっこ遊びへと広げていき、並べたり、順番を決めたりする事も出来るようになっている。



・沢山の色があるので色別に積み上げたり、並べたりしていく中で保育者と一緒に数を数えてみると自分達でも数え始め「〇個あげる。」など分けてあげようとする姿も見られるようになっている。単色だけでなく、複数の色を交互に重ねたりお友達と一緒にルールを考え出す姿も見られる。



5. 振り返り

・数を準備できたことで一人一人が存分に取り組む事が出来、繰り返していく中で形をどんどん変化させる姿が見られこども達の発想に驚かされている。色や形への興味にも繋げる事ができている。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	一の橋こどもの家
施設所在地	狛江市岩戸南1-3-12-1階
法人名	一般社団法人やよい会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

感覚（テーブル、椅子）

<テーマの設定理由>

・ベビーチェアから移行する事で、高さのあった姿勢でしっかりと座る事ができ、皆で活動できる幅を広げていく。

2. 活動スケジュール

令和7年7月～令和8年2月（月5回活動）

・1歳児クラス（8人）

でん粉糊の使い方を身に付け、色画用紙や紙花をちぎって貼っていき製作を行う。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【準備したもの】

- ・机、椅子、色画用紙、花紙、糊、段ボール
- ・数人ずつテーブルに分かれて座り、お友達の刺激も受けながら集中できるようにした。

4. 探究活動の実践

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

・糊の仕組みについて話しをして、糊に触れて感触を確かめる。糊に触れると不思議そうな顔をしたり、ねばねばさせたり、混ぜたりしていた。 糊の感触が苦手な子は



・ちぎった紙をお皿に入れていくよう説明するとちぎり始めるが、難しい子は少し切れ目を入れて渡すとちぎる事ができている。

・糊を紙についたらくっつく事も説明すると感触も楽しみながら糊を指につけて紙に塗り、ペタペタ貼っていく活動を楽しむ。

5. 振り返り

同じ机で取り組む事が出来るようになり、お友達の姿がよく見える事で一緒にやってみようとする姿が増え、製作への興味が低かった子も積極的に取り組み「見て。」「くっついたよ。」「もっとする。」と会話をしながら取り組む姿が見られる。椅子の座り方については回数を重ねて自分で座ることができるようにしていきたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	一の橋こどもの家
施設所在地	狛江市岩戸南1-3-12-1階
法人名	一般社団法人やよい会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

感覚（バランスストーン、ジャンプフープ、フラフープ）

<テーマの設定理由>

バランスの感覚を養いながら身体を動かすための使い方を知り、運動遊びを楽しんで行うことをねらいに設定した。

2. 活動スケジュール

令和7年7月～令和8年2月（月4回活動）

・2歳児クラス（9人）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【準備したもの】 バランスストーン・ジャンプフープ・フラフープ・ぽっくり、縄跳び

4. 探究活動の実践



（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

・サーキット遊びのように身体を動かして遊べる環境を作り、バランスの取りづらいバランスストーンの傍に付くようにした。足で物に乗ることにより、凹凸面などから踏む時の感触を味わいながら、バランスの取り方や身体の使い方など感覚が身に付くようにした。

・フラフープをマットに通してみると、そこを通る時に自分の腕や身体を使ってグラグラさせ、バランスを取りながら進むことを楽しんでいた。

・バランスストーンを進み、体幹を使ってバランスを取り、ジャンプして降りてみることを保育者が提案してみると最後のものからジャンプして降りている姿が見られた。また早く行いたい気持ちを前面に出し参加できていたが、間隔を空けること、保育者に名前を呼ばれた子から行っていくことを伝えると、しっかりと順番を待つことが出来ている。

・子ども達が縄跳びの片側の持ち手を持ったまま公園内を走り回っていた為、保育者が縄の両端をくっ付けて電車に見立て車掌さんとして散歩する。その子達に電車などの乗り物に興味を示して友達を誘って乗ってもらうことを提案すると翌日以降から「○○ちゃん（君）乗ってください」など、車掌さんとお客さんになりきって遊び始める姿が見られていた。ぽっくりに挑戦したい気持ちがあり実際に乗ろうとしていた為、保育者が紐を持ってバランス良く乗り、歩く練習をする。少しずつ感覚を掴めるようになってくると子ども同士で1個のみ使用時や、両足を乗せて公園内の散歩をするなどの姿が見られている。

5. 振り返り

保育者は子ども達が楽しめるような行動を提示し、足の広がる幅を考慮しながら設置する。サーキット遊びのように身体を大いに動かせる緩急緒を設けたことで、友達同士での会話も広がり、互いに顔を見せ合いながら、楽しむことが出来ていた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	一の橋こどもの家
施設所在地	狛江市岩戸南1-3-12-1階
法人名	一般社団法人やよい会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

感覚（バギー、砂場道具）

<テーマの設定理由>

バギーに乗って、四季折々の風景や、草花などの匂いを五感で感じる。

2. 活動スケジュール

令和7年9月～令和8年2月（月4回活動）

・2歳児クラス（9人）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【準備したもの】バギー、砂場道具

4. 探究活動の実践

<活動の内容>



（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

・春に咲いている花を見かけ保育者がタンポポなどの花の名前を伝えると、興味をもって指差しをしていた。言葉数が段々と増してきたことにより、梅雨の時期に保育者が紫陽花を見つけて散歩の道中に話をすると、次からの散歩時に「ここにもあるね」など、覚えていることを伝えてくれた。色の話をして、色の名前の認識が定着してきていた。どんないろがすきの歌を保育者と一緒に歌うことを楽しんでいる。公園でドングリなどの実を見つけると保育者と一緒に数を数え、数字に少しずつ興味を示し始める姿も見られる。雪が降った翌日以降の散歩では民家の屋根から氷柱が垂れて溶けてきているところや雪だるまを見て「雪だるまだ。お家でも作ったよ」などの会話が聞かれた。幼児クラスの子も達が雪をバケツに集め出すと真似をして集め、保育者に見せに来るなど興味関心を持っている。

・砂場道具のバケツにスコップで捕まえた虫を入れて観察をする様子や型抜きをしたものに葉っぱを飾り、デコレーションを楽しむ姿、ダンプカーを使って工事をすることや、アイススプーンや食器を使ってお店で販売する品物を作りお店屋さんになりきるなど、ごっこ遊びの幅も広がってきている。友達や保育者と一緒にスコップを使って高いお山作りをすると、次回からは友達と「今日、一緒に遊ぼう」や「今日、何して遊ぶ?」、「お山作りたいから、お山作ろう」など誘い合っていて遊んでいる。

5. 振り返り

子どもが興味を持てるような言葉がけをし、発見と驚きを共有できたことでいつも見ている景色でも興味関心を持つことが出来ているようだった。友達同士で誘い合うと楽しいということが分かり、いつの間にか一緒に遊ぶことを楽しんでいた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	一の橋こどもの家
施設所在地	狛江市岩戸南1-3-12-1階
法人名	一般社団法人やよい会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

感覚（プロジェクター）

<テーマの設定理由>

床に顔を近づけて車や電車の玩具と同じ目線で遊ぶ姿が見られたことから、電車の運転席から見える映像や音を体験し、視覚や聴覚を通して気づきや想像を促し、遊びを深められることをねらいに活動を設定した。

2. 活動スケジュール

令和7年12月～令和8年3月（月4回活動）

・2歳児クラス（9人）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【準備したもの】プロジェクター・スピーカー・パソコン・段ボール電車

映像が見やすいように室内を少し暗くしたので、子ども達の近くに保育者がついて声をかけ、不安を感じることがないようにした。

4. 探究活動の実践

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

・今日は電車の運転手さんになるよ、とこれから始まる映像の説明を行う。映像が流れると、電車好きの子ども達から「新宿駅だ!」「ロマンスカーだ!」と声があがる。見慣れない運転席からの景色に見入る姿が見られた。・トンネルや鉄橋で景色が変わると驚いたような表情が見られた。保育者は「トンネルだね。まっくらだね。」等言葉にして気づきを共有しながら一人ひとりの感じたことを受け止めた。・映像を見た後、電車に見立てた段ボールを使って自らが電車になって走って遊んだ。



5. 振り返り

映像を通して普段体験できない運転席からの視点を疑似体験することで、子ども達の遊びへの集中や想像がより深まったと感じた。普段から電車遊びが好きな子どもにとってはもちろん、興味を示していなかった子ども達も、電車の動きや景色のイメージを持つことができ、遊びの幅が広がった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	一の橋こどもの家
施設所在地	狛江市岩戸南1-3-12-1階
法人名	一般社団法人やよい会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

感覚（粘土）

<テーマの設定理由>

活動の中で、絵の具や粘土などの感触に戸惑う姿や、指先や手のひらで積極的に楽しむ姿が見られ、それぞれの興味や感じ方の違いがあった。遊びを通して興味や発見が広がることをねらいとして設定した。

2. 活動スケジュール

- ・令和7年6月～令和8年2月（月5回活動）
- ・2歳児クラス（12人）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- 【準備したもの】油粘土・ヘラ・テーブル・イス・シート・テープ
・机と椅子で安定した座り方を整え、遊びに集中できるようにした。

4. 探究活動の実践

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）・はじめの頃は粘土の固さに戸惑う姿が多かった。保育者も一緒に粘土を手にして「ぎゅっとするとやわらかくなるね」など言葉にしながら手の動かし方を見せた。・保育者の真似をするうち自分達で扱えるようになり、細長く伸ばしたり、叩いたり、くっつけたりして楽しむ姿が増えていった。10月頃から道具を取り入れて模様をつけたり、自分で形を作って食べ物に見立てたり、自分の作品ができると嬉しそうに友達や保育者に見せ、大事にする姿があった。



5. 振り返り

道具を使わず遊び始めたことで、はじめは触感に戸惑い短時間で遊びを終わらせていた子ども達も、次第に慣れて手指で触れる経験を深めることができた。触れることに抵抗がある子に対して、並べる、入れるなどの遊びの選択肢を準備しておけばよかった。